([a,*]Chiba Prefectural Sawara High School,
2685, Sawara, Katori, Chiba, 287-0003 JAPAN;
[a]千葉県立佐原高等学校 ,
[b]Yokoshibahikari Town Office,
11902, Miyagawa, Yokoshibahikari,
Chiba, 289-1793 JAPAN;
[b]千葉県横芝光町役場 ,
[redacted] Yachiyo, Chiba, 276-[redacted] JAPAN
[c]千葉県八千代市[redacted]
*Corresponding author: yashirokatsuhiro@ybb.ne.jp)

新　刊

□八田洋章・大村三男（編）：**果物学　果物のなる樹のツリーウォッチング**． B5. 388 pp. 2010. ￥4,800. 東海大学出版会. ISBN: 978-4-486-01877-3 C3045.

フェノロジー，ツリーウォッチングは，八田氏の年来のテーマである．聞きなれない「果物学」という表題も，従来の果樹学，果樹分類学とは一線を画そうとする彼のこだわりの表現である．とは言っても，このようなテーマは彼独りでこなせるものではなく，共編者のほかに，巻末には 17 名の分担執筆者の名がある．

先頭のカラー写真頁では，主な果樹の一年間の姿態を時を追って示すと共に，その品種や産状が見られる．構成は I 果物のなる樹のツリーウォッチング (92pp.)，II『果物学』事始め (31 pp.)，III『果物学』各論－果物と人々との係わり (204 pp.) の三部より成る．I は「花と葉の観察」,「茎と根と果実の成長」,「果実と種子の成熟」,「冬芽と樹形の観察」の 4 章より成り，いわば植物マクロ形態学詳論というところ．写真や線画やグラフをたくさん使って，いろいろなトピックについて説明がある．白黒写真が全体にモヤがかかったようなのが惜しい．その間を縫って，コラムだの研究ノートだのと名付けた記事が , 本文がどこにあるかわからないほど至る所に挿入されていて，いろいろ役に立つ．

葉脈標本は古植物の人が作る以外は，子供の夏休みのテーマくらいに考えていたが，丁寧に作ってゆくと木部系と師部系に分離し，しかも両者のパタンが異なることなど知らなかった．おまけに種類による両系の違いが，小学生の自由研究から引用されている．引用された子供の研究心を掻き立てることだろう．また，芽鱗痕から年齢を推定することは，かねて野外授業で里山の成り立ちを考える際の関心事だったので，参考になった．

II は III の序論で，果実や果樹の全般についての概論である．III はカンキツ，ビワ，ウメ，カキ，クリ，ナシ，リンゴ，ブドウなど 16 種類，およびその他の果樹についての各論で，それぞれについて，分類，品種，栽培の実際，収穫，保存などについて，専門家によるいわゆる果樹学的記述が見られる．それぞれの先頭に「～のツリーウォッチング」と題して，つくば市と我孫子市（八田氏自宅）その他で，たいていは数年間続けられたその種類に関するツリーウォッチングの記録が，年月日入りでついている．記録年はかまわず，月日の順序に，花が開いたとか葉が落ちたとか，特記事項も含む観察日記的な記述で，ここにも八田氏のこだわりが反映されている．これが集積されれば，その果樹の生活史となるのだろう．とてもユニークな本で，今後他の人による類書が出るとは思われない．分類学の人が手に入れておいて損はしないだろう． （金井弘夫）

□仙台市の植物調査委員会（代表：阿部孝志）：**標本に基づいた仙台市野生植物目録**．A4. 309 pp. 2010. 仙台市公園緑地協会．ISBN: No number.

2008, 2009 年に行われた調査で収集された標本，および東北大学標本室に保存されている標本のうち，仙台市産のものをデータベースに整理したリストで，約 12,900 件のデータが収容されている．これをどのように利用する，あるいはしてもらうかは今後の課題で，すでに他地域に多くの前例があるから，次の事業が検討されていることと思う．

それにしては，この目録の頒布や頒価についての情報がないのはどうしたことだろう．近頃は公的機関の作品でも,「個人情報保護」とか「危惧種の保護」を名目に，データを分与しない方針のところもあると聞く．関心ある方の問い合わせ先としては，標本の収納先である仙台市野草園（982-0843 仙台市太白区茂ケ崎 2-1-1）が良いだろう． （金井弘夫）